

福祉のひろば

特集

住まいも自己責任？

——日常生活の営みで欠かせない居住権を考える

座談会 発刊1年

——真田是著作集を解きほぐす

6

2013



ひろばトーク

全日本おばちゃん党代表代行・大阪国際大学准教授

たにぐち

まゆみ

谷口 真由美さん

.....
オッサン政治はウンザリ——全日本おばちゃん党を結成！

編集 総合社会福祉研究所

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

ユーチューブ

YouTube 総合社会福祉研究所チャンネル

- ① <http://www.sosyaken.jp/>
にアクセス！ または、
グーグル、ヤフーなどで
「総合社会福祉研究所」を
検索！

- ② 画面右下のここ → → → → →



をクリック！

見たいものをお選びください。

YouTube™

総合社会福祉研究所 チャンネル

社会福祉イベントの録画を
配信する保管庫はこちら

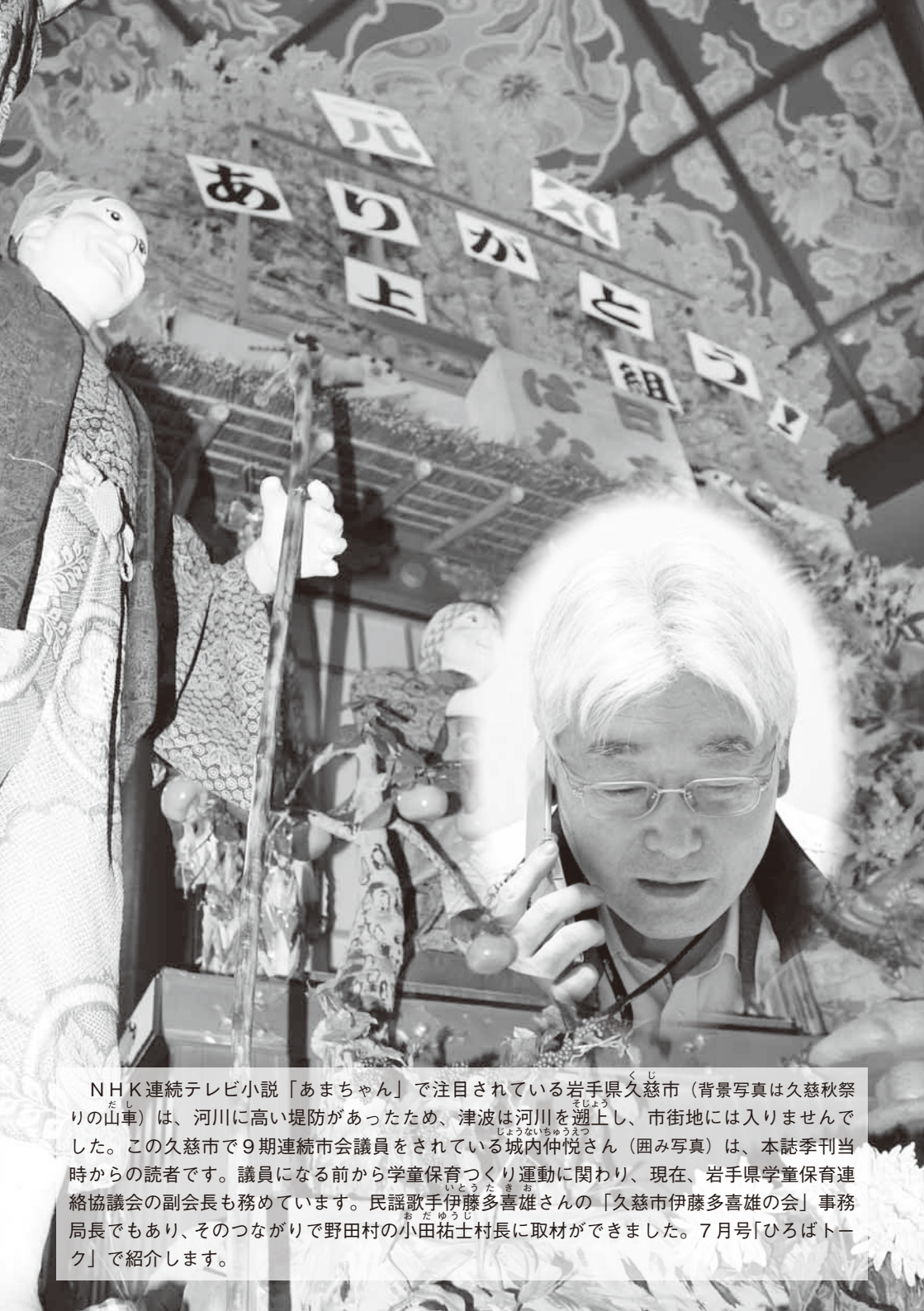
※ ユーストリーム福祉のひろばチャンネルもあります。

社会福祉士事務所開設10年を迎えました

かしまたけお くまがい
(福島県喜多方市 鹿島丈夫・熊谷まゆみ社会福祉士事務所)

ラジオ番組「茶の間の福祉」は「FMきたかた」開局以来、時間を買い取り地域に根ざした福祉情報を提供しています（写真下）。聴かれた方からの相談もあります。熊谷まゆみさんは四〇代で通信制大学で社会福祉を学び社会福祉士の資格を取り、家庭相談員として働いたあと事務所を開設。現在はスクールソーシャルワーカー、成年後見人、介護認定審査委員、精神障害者自立支援員として活動されています。地域の中で「てのひらの会」（高齢になっても楽しく暮らす仲間づくり）、「居住支援市民の会」（障害者が公営住宅に入居する際の保証人になる組織）、「勉強室・さくら組」（子どもの学びを支援するボランティアグループ）を立ち上げ、活動されています。モットーは「やれることを楽しくやる」。

鹿島丈夫さん



NHK連続テレビ小説「あまちゃん」で注目されている岩手県久慈市（背景写真は久慈秋祭りの山車）は、河川に高い堤防があったため、津波は河川を遡上し、市街地には入りませんでした。この久慈市で9期連続市会議員をされている城内仲悦さん（囲み写真）は、本誌季刊当時から読者です。議員になる前から学童保育づくり運動に関わり、現在、岩手県学童保育連絡協議会の副会長も務めています。民謡歌手伊藤多喜雄さんの「久慈市伊藤多喜雄の会」事務局局長でもあり、そのつながりで野田村の小田祐士村長に取材ができました。7月号「ひろばトーク」で紹介します。



ふながた

たかみつねのり

宮城県船形コロナ一育成会会長の高見恒憲さん。「経済優先の施設追い出しは許せない、公的福祉を守ろう」と取り組んでいます。全日本年金者組合宮城県本部書記長もされています。「年金者組合は楽しくなければ」を活動の柱に、お花見会、お月見会、祝寿会（数えて77、80、88歳の方を祝う）、カラオケを楽しむ会、「花の輪」合唱団、登山サークル、料理サークル、一泊旅行、日帰り旅行、望年会などの活動を通して仲間づくりをしています。地域住民の困りごとや要求を改善・実現させるために、宮城野区区民要求実現連絡会で要望をまとめ、区と交渉や話し合いも行っています。



岩手県宮古市の田老漁港^{たろう}の港岸改修工事現場をかもめが飛び交います。港には漁業者の作業用仮施設が建てられていました。巨大な防潮堤には、観光バス等で毎日のように視察に来ます。

「かもめ 群れ泣き 清新の……」から始まる宮古市立田老第一中学校の校歌は、「なくそう！ 子どもの貧困」全国ネットワーク編『大震災と子どもの貧困白書』（かがわ出版、2012年）に、3番の歌詞「防浪堤^{ぼうろうてい}を仰ぎみよ 試練の津波 幾たびぞ 乗り越えたとし わが郷土 父祖の偉業や 跡つがん」が紹介されました。同中学校では、震災から丸2年経った今年3月11日、津波体験作文集『いのち』が生まれました。 (写真・文 下野祇園)

※あなたも本誌グラビアで活動を紹介しませんか？ 詳しくは編集室へ。

【ひろばトーク】

オッサン政治はウンザリ——全日本おばちゃん党を結成！

谷口真由美 6

福祉のひろば

2013年6月号

●特集● 住まいも自己責任？
——日常生活の営みで欠かせない居住権を考える

公営住宅に住む人々の住居の実態	10
復興はまだ終わっていない	
——借り上げ住宅の契約打ち切りを許さない	15
住まいは国民の生活基盤。	
その確保は、市場に委ねず公的責任で。	
——唐鎌直義さんに聞く	22

●トピックス●

座談会 発刊1年——真田是著作集を解きほぐす	
石倉康次・浜岡政好・芝田宇佐男・前田鉄雄・北垣智基	30
投稿 スウェーデンにおけるDV施策	山口佐和子 44
愛知で8/31～9/1に開催予定——第19回社会福祉研究交流集会	29
「ユーチューブ総合社会福祉研究所チャンネル」の登録を	43
若者がつくる「福祉のひろば」Part2 着々と取材へ！	75

●連載●

フォーラム	細貝大二郎	50
参議院選挙で憲法、いのち、くらしを守りましょう！		
ひとつのこと—社会福祉労働と私たちの実践		
職種間の連携を深め、利用者をつくりあげた「こすもす」の味		
貝塚こすもすの里		52
連載 小川政亮 第二部 自伝 (15)	小川 政亮	54
私事乍ら、そして扶養義務と世帯、さらに就学援助2題		
相談室の窓から T君と「わくわくクラブ」(1)	青木 道忠	58
わらじ医者 早川一光の「よろず診療所日誌」	早川 一光	60
不思議、ふしぎ、人間のつくり (その18)		
育つ風景	清水 玲子	62
待機児のお母さんがたしかにここにあります！		
いっばいっばいの挑戦 (3)	繁澤 多美	64
本人も気づかない力を発見		
映画案内 『夢』	吉村 英夫	66
現代の貧困を訪ねて	生田 武志	68
「貧しい人が遊技していると通報される」世の中になった		
なにわ銭湯見聞録 (弐)	ラッキー植松	70
いただきます！ 元気に育て！ ぱりぱりサラダ	すみれ保育園	72
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜	74
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ	76

●表紙の絵●

神門やす子



●カット●

川本 浩

みんなのポスト 48 / 今月の本棚 77 / 福祉の動き 78

●グラビア● 社会福祉士事務所開設10年を迎えました

オッサン政治はウンザリ

——全日本おばちゃん党を結成！

全日本おばちゃん党代表代行・
大阪国際大学准教授

たにぐち まゆみ
谷口 真由美さん

それは昨年九月のことだった。ふとテレビをつけると、民主党の代表選と自民党の総裁選が繰り広げられ、連日その様子が映し出されていた。また、同じころ大阪では維新の会が、次の総選挙に向けて公約となる「維新八策」を発表していた。さらに、尖閣諸島をめぐる中国や台湾との外交問題もますます拡大しつつあった。どこもかしこも、「オッサン一色」。スズメにハトにカラスの色の衣装を身にまとい、勇ましいことばかりを叫び、お互いを罵り合い、挙句の果てに矛先は弱者に向かう。思わず画面に向かつて「なんやねん、これ。どこを見てもオッサンばかりやんか！」と叫んでしまった。

なんともウンザリ、ガツカリしたとき、思わずソーシャル・ネットワーク・サーブिस（SNS）のフェイスブックに冗談で呟いた。「オッサン政治劇場に嫌気がさしたわ。おばちゃん党でもつくったるか（笑）」と。その私の冗談に、とりわけ女性の友人たちが「ええやん」「そうやで」「ほんまや」とワーツと賛同してくれたことから、そのまま勢いでその日のうちにフェイスブックに「全日本おばちゃん党」というグループを立ち上げた。目的は、おばちゃん全体の底上げと、どこまでもシャレ感を大切にオッサン政治にチャチャをいれていくことで、本当の政治政党になる気はない。フェイスブックだけの集まりだが、仲間は今や二一〇〇人近くになった。そのなかでの会話は、台所事情から海外事情まで幅が広い。この井戸端会議をすることで、今まで気づかなかったことに気がついたというおばちゃん、はじめて自分の言葉で自分の意見を言ったというおばちゃんも多々いる。

「おばちゃん」という名称に抵抗感のある人も多いが、そもそも「おばちゃん」が蔑称になっていること自体、オッサン社会の弊害だと思っている。「おばちゃん」で何が悪い。フランス語の「マダム」は日本語に訳したら「おばちゃん」だ。他に訳しようがない。



たにぐち まゆみ

大阪市生まれ。博士（国際公共政策：大阪大学）。専門は国際人権法、ジェンダー法、憲法。世界人権問題研究センター第4部（女性の人権）部長。著書に『リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス』、『新・資料で考える憲法』など。全日本おばちゃん党は下記URLを参照のこと。

<http://www.facebook.com/obachanparty>

昨年一月には大阪で「始動式」を行い、おばちゃんによる「はっさく」も発表した。いかにも当たり前のことを書いていると共感をよび、多くの人が取り上げてくださった。英語、フランス語、中国語、韓国語というように海外メディアにも多く取り上げられた。

全日本おばちゃん党 はっさく

【その1】うちの子どもよその子も戦争には出さん！

【その2】税金はあるところから取ってや。けど、ちゃんと使うなら、ケチらへんわ。

【その3】地震や津波で大変な人には、生活立て直すために予算使ってな。ほかのことに使ったら許さへんで！

【その4】将来にわたって始末できない核のごみはいらん。放射能を子どもに浴びさせたくないからや。

【その5】子育てや介護をみんなで助け合っていきたいねん。そんな仕組み、しっかり作ってや。

【その6】働くもんを大切にしいや！働きたい人にはあんじょう（いい具合に）してやって。

【その7】力の弱いもん、声が小さいもんが大切にされる社会がええねん。

【その8】だからおばちゃんのことを政治に生かしてや！

今年三月には、「東京場所」を開催し「腹太の方針」も発表した。これもあちらこちらで「ウケて」いる。ようやく、おばちゃんが政治を語る時代がきたのだと。参院選に向けてもいろいろ聞かれるが、あくまで「オッサン政治」はウンザリしていることと、日夜おばちゃん達の井戸端会議はとどまることをしらない、ということだけお伝えしておきたい。

特集

住まいも自己責任？

—— 日常生活の営みで欠かせない
居住権を考える ——



日本の住宅政策は、残念ながら、憲法第二五条に基づいた生活保障を支える政策からはほど遠く、市場化と金融政策（住宅ローン等の長期債務）に結びついた戦略的な政策によって進められ、他の日常生活を支える権利と同様に、生存権に欠かせない権利から自己責任へと追いやられています。特に、社会保障制度改革推進法の旗印のように進められている生活保障制度の改悪は、国民の分断の道具として使われ、社会保障制度全般を引き下げる道具としても用いられています。生活保障制度の改悪は、まさに、日常生活を営むためのさまざまな権利の侵害にほかなりません。

今号の特集では、公的住宅政策が貧困な中で、居住者の高齢化や一人暮らし等に対するハードとソフト両面からの対応が求められていながら、放置され続けている現実、建て替えによる家賃増額、バリアフリー設備の不備など、居住環境の悪化により居住者の社会参